
IS ~ 先導者とイメージ ~

永遠なる自由の剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS〜先導者とイメージ〜

【Nコード】

N1254BA

【作者名】

永遠なる自由の剣

【あらすじ】

いつものようにファイトをしていた櫛。

そんな彼を突如光が包み込んだ！目を覚ました彼がいた場所はなんと、ISの世界だった！

第1話 異世界へ

「ファイナルターン！」

權はいつものように強者を求めて裏ファイトをしに来ていた。

「竜は不滅、吐息は無限！魔炎イモータルフレイム！」

「負けたあ……」

(口ほどにもない奴ばっかりだな)

裏ファイターの中にも權を楽しませてくれるような人物はいないらしく權はため息をつく。

權はファイトが終わったのでグローブを外そうとしてあることに気づく。

ファイトが終わったのにユニットが自分の回りに存在しているのだ。

(ファイトは終わったのになぜ……)

その時、權が先程使っていたブレイジングフレアドラゴンが咆哮した。

次の瞬間、眩い光に包まれ權はその場から姿を消した。

第2話 始まり

「初めまして、副担人の山田真耶です」

眼鏡をかけた女性が黒板に自らの名前を書き、自己紹介をしていた。

「最初のSHRは皆さんに自己紹介をしてもらいましょう」

出席簿を見ながら名前順に生徒の名前を読み上げ、呼ばれた生徒は自己紹介をしていった。

そんなどこにもある風景の中で一人、頭を抱えている少年がいた。

彼の名前は織斑一夏。高校1年生になったばかりのどこにでもいる少年だ。

なぜ彼が頭を抱えているかというと

(クラスメイトが全員女なんて……想像以上に辛い……)

一夏が一人考え込んでいると

「……くん、……くん、織斑一夏くん」

副担人の山田真耶が顔を除きこんで名前を呼んでいた。

「はっ はいっ」

一夏は慌てて立ち上がる。

「ひゃっ!？」

一夏が立ったことに驚いたのであろう。
真耶がびつくりして声をもらした。

「あ……あの……お……大声出しちゃっ……てごめんなさい……お……怒
ってる?怒ってるかな?ゴメンね……ゴメンね!」

真耶は一夏に何かされると勘違いさしたのか執拗に謝ってくる。

「でもねでもね、自己紹介って『あ』から始まって今『お』の織斑
くんなんだよね……」

「あの……そんなに謝らなくても……しますから、自己紹介しますか
ら」

一夏が説得するように言うと

「ほ……本当ですか?」

少し安心したように聞いてきた。
するとそこに扉をあけてスーツを着た20代半ばの女性が入ってきた。

「新学期早々騒がしいぞ、織斑」

そう言いながら教室に入った瞬間教室が一気に騒がしくなった。

『……………あれ……………』

『キヤ

！千冬様！本物の千冬様よ！』

この入ってきた女性の名は織斑千冬。

織斑一夏の姉だ。

「毎年よくもこれだけ馬鹿者が集まるものだ……関心させられる……それとも私のクラスにだけ集中させているのか？」

千冬が呆れながらため息をついていると

ドオオオオン！

外から物凄く大きな音がした。

「山田君！君は教室でこいつらを見ていてくれ！」

「織斑先生はどうなさるんですか？」

「音のした所に行ってくる！ここは頼んだ」

千冬は教室を飛び出てアリーナを目指した。

するとそこには大きな穴があり土煙が舞っていた。

（攻撃？そんな馬鹿な）

土煙が晴れてくるとそこには制服を着た少年が倒れていた。

(気を失っているようだ……保健室に運ぶか……)

千冬はその少年を担ぎ上げ保健室へと向かった。

騒ぎが騒ぎなので自己紹介はまた明日やることになり真耶と千冬は保健室へと来ていた。

すると少年が目を覚ました。

「ここは？」

「ここはIS学園、お前は何者だ？」

横から声がしたのでそちらを向くと眼鏡をかけた女性とスーツ姿の女性が椅子に座りながらこちらを見ていた。

「俺の名前は權トシキ……IS学園とは何だ？」

「私の名前は織斑千冬、こっちは山田真耶だ。私たちはIS学園の教師だよ。さてお前の質問だが、ここは女にしか反応しない兵器、インフィニットストラトス、通称ISの操縦者を育成する学園だ」

千冬が説明してくれたが權には訳がわからなかった。IS等という兵器は自分の住んでいる世界にはないのだから。

「次はお前が何者なのか教えてもらおう」

「俺は」

權は話した。カードゲームが世界レベルで流行っていて自分は先程

までファイトをしていたと。そしてISなど知らないということも。

「この世界ではないところから来たと……信じがたいが信じるしかないな……お前これからどうするんだ？こつちの世界でやってくしかないんだろっ？この学園に入学するか？」

千冬が色々と聞いてきた。

「入学するにも俺は女じゃない。ましてやIS等持っていない」

「それは心配いらん……」

自分の考えとは違う答えに困惑する權。

「お前のその手にはめているグローブがISだということがわかったからな」

「何だと!？」

「さあどうする？少なくともこの学園に入学すれば3年間は安全だぞ？入学しなくても良いが金も家も戸籍もないお前がこの世界で暮らしていくには厳しいと思うがな」

權はその場で色々と考えたが答えは一つしかなかった。

「入学……しよう」

こうして權の入学が決まったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1254ba/>

IS～先導者とイメージ～

2012年1月3日01時52分発行